

予 算 要 求 資 料

令和6年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：林業費 目：林業振興費

事業名【新】全国都市緑化ぎふフェア協賛事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

林政部 岐阜県立森林文化アカデミー 教務課 電話番号：0575-35-2525(内207)

E-mail：c21907@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 3,000 千円 (前年度予算額： 0 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要求額	3,000	0	0	0	0	0	0	0	3,000
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

持続可能な循環型社会の創造に寄与できる人材を育成するためには、自然に根差した解決策を求める取り組みの推進が求められており、アカデミーの学びの中にも暮らしをベースとした里山での学習を取り入れることが必要であるが、それを実践する里山フィールドを学内に確保することは困難である。一方、県営都市公園「ぎふ清流里山公園」は当学から比較的近く、人と自然が接する里山の公園であり、里山を軸とした学びを展開する場として適している。自然との共生に関連したテーマで令和7年度に当公園で全国都市緑化ぎふフェアが開催されるのを契機ととらえ、令和6年度に里山を活用した森林環境プログラムを当公園で試行し、フェア開催への機運向上にも寄与する。

(2) 事業内容

里山を活用した森林環境プログラムを試行する。

【想定される森林環境プログラム】

- 「馬と手で作る家プロジェクト」
手斧による伐採と馬搬による木材搬出、オガやチョウナで製材された木を使って里山の木工技術を習いながらセルフビルドで小屋や家を建てることに挑戦する公開型実習。
- 「里山の生活文化リアル体験野外博物館」
日本人が里山で培ってきた里山の生活文化を「材料を育てるところから」体験する。
- 「未来の里山活用担い手教育」
里山の自然と共生したライフスタイルを牽引していける人材を育成する。

(3) 県負担・補助率の考え方

森林文化アカデミーの運営に関わることのため、県において全額負担することが妥当

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
人件費	103	報酬
報償費	400	講師謝金
旅費	225	講師費用弁償
需用費	260	消耗品費：協賛事業実施に係る消耗品260,000円
役員費	15	保険
委託料	1,263	バス運行、プログラム実施、会場設営
使用料及び賃借料	464	借り上げ、高速料金
備品購入費	270	協賛事業実施に係る備品
合計	3,000	

決定額の考え方

--

4 参考事項

(1) 後年度の財政負担

なし

事業評価調査書（県単独補助金除く）

■ 新規要求事業

□ 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

里山での実践学習を取り入れることに関し、関連する森林環境プログラムを実際に里山のフィールドで試行し、今後の課題を抽出する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R元)	R2年度 実績	R3年度 実績	R4年度 実績	終期目標 (R)	達成率

○指標を設定することができない場合の理由

本事業は、全国都市緑化ぎふフェアの開催を契機に協賛事業として試行的に実施するものであり、指標化は困難

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	
令和3年度	
令和4年度	

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>▪ 事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</p>	
(評価)	
<p>▪ 事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない</p>	
(評価)	
<p>▪ 事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</p>	
(評価)	

(今後の課題)

<p>▪ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 持続可能な循環型社会の創造に寄与できる人材を育成するためには、継続した取り組みが必要であるため、里山での実践学習を展開する里山フィールドの確保に関して関係部局との調整を図るとともに、今回の試行により抽出される課題に対応していく。</p>
--

(次年度の方向性)

<p>▪ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 本事業は、全国都市緑化ぎふフェア開催を契機に一時的に試行するものだが、県営都市公園の未利用区域をフィールドとすることで、県民による公園の利用が促進され、また、より多くの県民の学びを通じ、持続可能な循環型社会の創造に寄与すると考えられるため、アカデミー学生のみならず、地域にも開かれた学びの空間を提供する場として里山フィールドでの取り組みが実現するよう調整を図っていく。</p>

(他事業と組み合わせる場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課</p>	【〇〇課】
<p>組み合わせる理由 や期待する効果 など</p>	